■■■

□口繪『モデル』は日本水彩畫會研究所に於ける短時間の稽古繪にして、原圖はワツトマン九ツ切大に御座候。

□中繪『雨後の濱邊』は二月十九日午後國府津に於けるスケツチにして、ワツトマン八ツ切より稍大なるものに候。

□目下編者の手にある原稿は、石川欽一郎氏の『美術談叢』、小島烏水氏の『ラスキンの山岳論』續稿、榕村主人の『色彩の對象』、大下藤次郎氏の『靜物寫生の話』の續稿、夢鷗生の「近世畫家論抄譯」二三篇等にして、次號以下漸次掲出可致候。

□『みづゑ』特別讀者は第一期滿了にて此際多數を減ずべく、從つて本誌經營に影響を及ぼし候次第につき、滿期の方は引續き御贊助ありたく、猶新に御加入を希望致候。

近事

△石川欽一郎氏は臺北に在て公務の餘暇有志の爲め水彩畫の講習をなし來りしが、去月三十日及三十一日其成績品展覽會を臺北學院に於て開催せられたり。出品者は石川欽一郎、中村常吉、小熊寅之助、渡邊竹次郎、花園世師、加藤常太郎、湯淺直松、松崎靜祐の諸氏にして、其數五十七點を衆庶の觀覽に供し、兩日共多數の參觀人ありて極めて盛會なりしと。因に、寫眞中央立札に手をかけて起てるは石川氏なり。

△日本水彩畫會研究所一月例會は二十四日開會午前は大下講師の『洋畫の流派』と題する講話あり。午後より成績品二百餘點に對する河合、永地、大下、藤島、磯部諸氏の批評あり、水彩畫のうち授賞者は水野以文、八木定祐、相田寅彦の三氏にして、デツサンの授賞者は石膏岡田武松人體水野以文兩氏なり。夫より茶話會を開き、月次會を終り次に新年會に移り、種々の餘興ありて午後九時過散會したり、當日の出席者約六十名なりし。

△乙部笑波氏等主唱となりて大阪葉月洋畫會なるものこの程設立せられたりと。

△群馬縣前橋中學校にては二月十一日紀元節を卜して繪畫展覽會を開かれしが、出品の重なるものは日本水彩畫會研究所學生及眞野大下兩氏の作なりき。

紹介

◎月刊ペースボール　四六二倍判四十八頁の雜誌にして寫眞版の口繪四面あり、斯道の流行に應じて世に出しもの、記事專門的にして門外漢には面白からざれど其道の人には定めて有益のものなるべし（一部十錢小石川久堅町百〇八、野球研究會發行）

◎北海の青年　キク判八十四頁、記事は廣く文學音樂教育家庭等あらゆる方面に涉り、寄稿家もまた種々の顔振にて卷中諸所に繪畫を挿めり、地方雜誌の臭味なく意氣甚だ高し、健全なる發達を望む（毎月一回一册十五錢、札幌南五條西七丁目北海之青年社發行）

◎南米　題して殖民の世界といふ、世界旅行家中村直吉氏の主宰するもの（四六倍判四十二頁、毎月一回一部十二錢、府下南品川二日五日市村南米發行所）

◎方寸　二月號は『特別漫畫號』として未醒、百穗、幸、繁二郎、栢亭、樂天、鼎、恒友長原氏等の繪畫を收む